手術室における薬品運用の見直し
～薬品管理作業の時間短縮を目指して～

吉田早希　西森　渚　小森美弥子
大橋弘美　白木裕子　位田　優

要旨：当院手術室では使用する薬品を手術室看護師と薬剤師で管理している．薬品の管理方法として，頻用薬を各ルームに常備し，それ以外の薬品は救急カートや共有保管庫で管理していた．そして，これらの薬品はすべての手術で共有しており，部屋の薬品が不足した場合は，棚同士で薬品の移動を許容していた．また，保管場所が複数存在するため，補充の際の動線が長く効率が悪かった．さらに前日使用した薬品が補充される前に翌日の手術が始まってしまうこともあった．こういった状況下で薬品の使用量を手術ごとに正確に把握することは困難であり，請求ミスや補充の煩雑さに繋がり，看護スタッフの負担となっていた．実際，薬品管理にかかる時間を計算すると，手術件数などによってばらつきはあるが，１日に35分～２時間程度要していた．そのため，今回改善活動として薬品のセット化や補充方法の変更に取り組み，薬品管理体制を見直した．その結果，薬品の使用量の管理が容易となり，請求ミスの低減に繋がった．加えて，補充作業が簡素化したことで作業時間は１日平均15分程度と大幅な時間短縮につながった．

【はじめに】

手術室では複数の薬品や輸液製材を使用している．そして，症例ごとに使用する薬品の種類や量は異なり，それらを正確に把握することは医療職としての責任を担うものである．しかし，当院手術室の薬品管理は煩雑であり，請求ミスが多く，またこれらの管理作業に多くの時間を費やしていた．そこで，薬品の管理体制と，補充作業を改善し，請求ミスの低減と作業時間の短縮を実現した．

【方　法】

１．頻用薬のセット化（図１・図２）
- 麻酔別薬品セットを作成し１手術１セットで運用．
- セットトレイ内は型抜きシートで薬品を配置．
- 輸液はセット化し，手術毎に使用．
- 全手術共通の薬品請求伝票を麻酔別の様式に変更．

２．カート運用（図３）
- 麻酔別薬品セットを収納したカートを作成．
- カートは２台作成し，交互に使用（日替わり運用）．

図１　麻酔別のセットの作成

岐阜赤十字病院　手術室

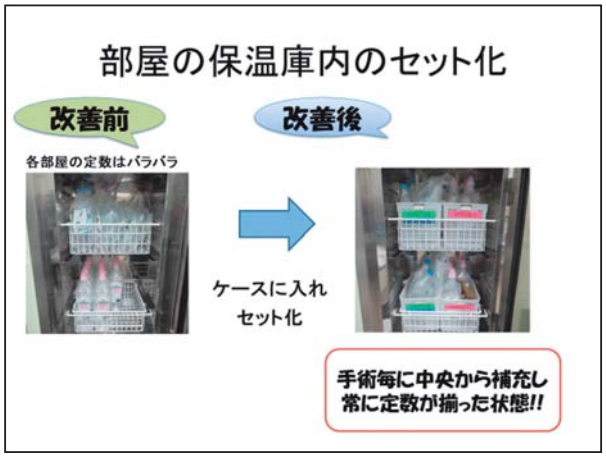

図２　補液のセット化

図３　カートの２台運用

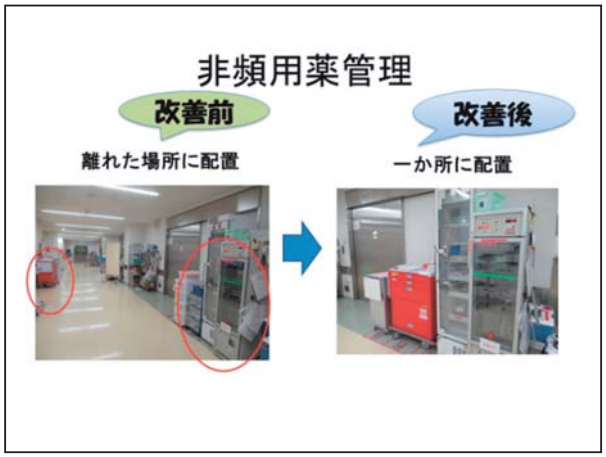

図４　補充の簡素化

３．補充方法の変更（図４）
- １，２で各部屋の常備薬を廃止.
- 共有の非頻用薬（救急カート，保管棚等）の保管を複数個所から１か所へ変更.

【結　　果】

改善後スタッフにアンケートを行った結果，使用した薬品が把握しやすくなり，取り忘れが少なくなった，過不足の薬品処理に費やす時間が減ったなど肯定的な意見が多くあった．また，薬品管理作業にかかる時間は，改善前に比べ，１日約30分から２時間短縮することができた.

【考　　察】

改善前の薬品管理では，頻用薬（輸液を含む）を各ルームに配置し，それ以外の薬品は救急カートや共有保温庫で管理していた（図５）．そしてそれらの常備薬は全ての手術で共有し，保管棚同士の移動を許容していた（図６）．そのため，どの手術でどの薬を使用したか把握しにくい状況であった．今回，１手術１セットで運用することで，他の手術との共有がなくなり，１件ごとの使用薬品の把握が容易になった．またセット内は使用薬品が分かるよう，型抜きシートで薬品の配置を決めた．そして今まで共通で使用していた薬剤請求伝票を変更し，麻酔別の伝票にすることで無駄な薬品名の羅列をなくした．配置や見た目を整理することで，視覚的に起こる請求ミスを低減できたと考える．また請求ミスがあった際も，請求伝票がセット薬品と同時に動くことが可能となり，照合が容易になった．他手術との薬品の共有をなくし，薬品請求時の煩雑さを改善することで，請求ミスの低減につなげることができた.

補充においては，改善前，前日の薬品補充が完了する前に当日の手術が始まっていた．そのため，補充の際，すでに薬品が使用されており，補充が煩雑となっていた．そこで，頻用薬のセット化に加え，輸液をセット化し，１症例ごとの使用とした．これらの変更により，当日の手術が薬品の補充作業に影響を与えることがなくなった．さらに，各部屋の過不足や，使用状況を確認し補充するといった作業が少なくなり，大幅な作業時間の短縮に繋がったと考える．非頻用薬については，緊急カート・保温

図５　薬品運用の現状

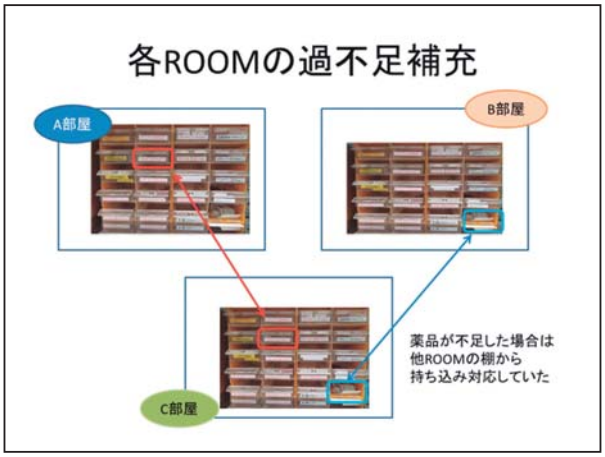

図６　各部屋の過不足補充方法

庫・冷蔵庫と保管場所が異なり，複数個所に配置されていた．そのため，可能な限りひとまとめに配置した．補充の動線を短くしたことで作業効率の向上につながったと考える．

今回，薬品運用を見直した．請求ミスの低減と補充作業の効率化が実現できたことで，作業時間が短縮しスタッフの負担軽減に繋がったと考える．

【ま と め】

今回の改善活動により症例ごとに使用した薬品が正確に把握できるようになり，手術室の薬品管理の向上につながった．これからは，薬品管理に費やしていた時間を術前訪問や，カンファレンスなど本来の看護業務へ還元し，より質の高い手術看護を提供していきたい．

【参考文献】

1）松田浩明，向原里佳，竹谷和美ほか：手術部サテライトファーマシーにおける薬剤業務の展開－専任薬剤師による医薬品安全管理の向上－．医療薬学．34(12)：1113-1119，2008
2）西村文宏，藤崎佳那子，龍田涼佑ほか：業務効率化を目的とした手術室セット薬品管理システムの開発，日本病院薬剤師会雑誌　49(7)：737-741，2013
3）濱崎翔平，高田正温，幸邦憲ほか：業務効率化を目的とした手術室払い出し薬品のセット化による効果，国立病院総合医学会抄録集68：ROMBUNNO. P4-3-6，2014
4）社会医療法人敬愛会，https://tqmh.jp/forum2014/tqm/site/upload/upload/．．．